

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 101 号

柔道競技におけるスコア獲得に有効な投技の戦術行動

(Tactical Actions of Nage-waza Effective for Scoring in Judo)

三宅 恵介 (みやけ けいすけ)

博士 (スポーツ健康科学)

論文審査結果の要旨

【研究目的の特徴・独創性・論理性】

本研究は、柔道競技におけるスコア獲得に有効な投技の戦術行動を対戦相手との相対的な関係から検討しており、従来の先行研究にみる分析項目や分析の信頼性などを十分にアップデートした上で、投技の連絡変化の有無や変化技の有効性を初めて示唆している。新たな観点からの柔道競技の戦術的行動を明らかにしている点に独創性と論理性があると判断できる。

【研究方法の妥当性】

本研究は、柔道競技を対象とした先行研究の研究のみならず、他競技の記述的競技分析研究を参考にデザインがなされている。得られたデータは、倫理的に十分に配慮されて取り扱われており、また、 χ^2 検定や残差分析を用いて検証がなされていることから、研究方法の妥当性や信頼性が確保されていると判断できる。

【結果・知見の新しさ】

本研究は、スコア獲得に有効な投技の戦術行動が変化技であること、その中でも手技の隅落の有効性について示唆している。先行研究では、投技の種類や技名称、組み手の観点からその有効性について検討しているが、本研究では、初めて対戦者同士の相対的な投技連絡変化の有無に着目し、スコア獲得には変化技が有効であるという新たな知見を見出している。

【考察および結論の妥当性】

本研究は、適切に参考文献を用いながら、論理的に考察が行われた上で新たな知見を導き出すことができている。一方で、著者の柔道競技者としての経験および指導者としての技術、戦術論をもとに論じている箇所もみられるが、先行研究を参考にしながら論理的に考察がなされているため、妥当性のある結論を導いていると判断できる。

【研究の当該分野における位置づけ】

本研究は、従来いわれてきたひとつの投技の追求のみならず、投技を相手との相対的な戦術行動として捉えることの重要性を示していることから、コーチングの実践現場の具体的な指導に役立つことが期待できる。

【質疑に対する応答の適切性】

質疑に対して、真摯に回答する態度がみられた。先行研究を十分に解析、理解したうえで、また、論理的な思考をしつつ適切な言葉を用いて応答できていることから、応答の力も十分に備えていると判断できる。

【論文審査の結果】

学位申請者は、この研究課題に関して 2019 年から学会発表を展開している。また、本務校では准教授として柔道競技を専門とする研究教育活動に携わりながら、JOC の強化スタッフ（情報戦略スタッフ）、日本柔道連盟強化委員会科学研究部の一員としても活動しており、記述的ゲームパフォーマンス分析研究において複数の学术论文を執筆しており、高い研究能力を有していると考えられる。

審査会は、本研究が独創性および論理性に富み、信頼性や客観性に基づく博士論文であることを認め「合」とする。